

香川の近未来に向けたアプローチ (第2版)

地域の解決すべき課題（一般論）

- **少子高齢化による現役世代の減少**
 - 労働力の確保、生産性の向上のために何ができるか
 - 高齢者の健康をどの様に支えるか（医療供給体制、社会保障費負担、セルフケア等）
- **東京など都市部とその他の地域の所得格差**
 - 中小企業を中心とした地域産業をどの様に支え、発展させるか
 - 最低賃金格差など、地域間での個人所得格差をどう解消するか
- **東京一極集中による若年者 & 現役世代の人材流出**
 - 地域内外の若者から高齢者までの各世代に対する魅力をアップするために何ができるか
 - 女性の方が都会志向が強い（地方に適切な職がなく、また働く女性のサポートも弱い？）
- **新型コロナウイルス感染症拡大による、中小企業の業況悪化**
 - 緊急事態においても事業を継続するためにどの様な備えができるか
 - 緊急事態に陥った際、どの様に企業を支えるか
- **台風や震災など多発する災害**
 - 災害が発生することを前提にどの様な準備をするか（ハード&ソフト）

香川の近未来へのアイデア①：健康的な生活習慣を実践でき、必要な時に必要な医療 & 介護サービスにアクセスできるまち

1-1) 香川CCRC*構想の実現

- 既存の高齢者住宅 & 施設には、時として、社会から見捨てられ未来がないイメージが付きまとい、必ずしも入居者が前向きに選択していないことから、“生きがい”や“楽しさ”を高齢者に感じてもらえる、現役世代同居(二世帯型含む)の新しい住まいの形を実現します。
- 一方で、在宅介護では同居家族の負担が大きく、仕事や生活にも影響することから、自宅においても施設並みの介護サービス提供できる仕組みを民間企業とともに実現します。

*CCRC(Continuing Care Retirement Community):

リタイア後のまだ元気なうちに入居し、介護が必要になっても移転することなく同じ敷地で、人生の最後まで豊かに暮らすための高齢者共同体のこと

香川の近未来へのアイデア①：健康的な生活習慣を実践でき、必要な時に必要な医療 & 介護サービスにアクセスできるまち

1-2) 香川医療福祉特区としての規制緩和

- **パンデミックを想定した空病床確保の観点から、地域病床数の上限緩和と、人員配置など実態に即した施設基準の緩和を検討します。**
- **認知症患者など、在宅での支援に家族の負担が大きい患者が必要な入院ができる療養病床の在り方を検討します。**
- **山間部など医療資源が乏しい地域に住む患者、難病など専門的知識を有する医師の診察が必要な患者へのオンライン診療(D to P)&遠隔診療(D to P with D)の選択肢が提供されるよう、対象者の基準緩和や診療報酬評価の充実など必要な見直しを目指します。**

香川の近未来へのアイデア①：健康的な生活習慣を実践でき、必要な時に必要な医療 & 介護サービスにアクセスできるまち

1-3) ウォーキングやランニングでの利用を想定した道路 & 歩道の整備

- 東京での皇居ランを参考に、極力車道と交錯しない周回歩道を住宅やオフィスからアクセスのいい場所に整備し、更衣室やシャワーなども設置して誰でも気軽にウォーキングやランニングに挑戦できる道路を実現します。さらに、暑さ対策アスファルトやミスト冷却装置など熱中症予防に役立つ機能を備えるなど、一年を通して安全 & 快適に利用できる工夫を検討します。
- 県内を周遊できる自転車専用道路を整備し、エクササイズとしての自転車利用者のみならず、観光としてもエコロジーかつ安価に香川の魅力を体験できるコースを実現します。さらに、アプリと連動して各地域の見所を紹介するなど、次のチェックポイントに行くことがワクワク楽しくなる仕組みを検討します。
- また、日常的に利用するマラソンコースやサイクリングコースを避難経路として活用できるように整備するほか、公園の敷地内を緊急時に避難場所までの避難経路として活用できるように敷地を設定するなど、住民が安心して安全に避難する仕組みを検討します。

香川の近未来へのアイデア①：健康的な生活習慣を実践でき、必要な時に必要な医療 & 介護サービスにアクセスできるまち

1-4) ゴミ出し下水道式ダストシューターの実験モデル地域

- 各住宅からゴミ集積場までを下水道のようにゴミ専用の通り道(ダストシューター)で結び、いつでもゴミ出しができる環境を実験モデルとして検討し、衛生的な住居空間の確保を実現します。
- ゴミ出しは高齢者に大きな負担感を与えていることから、特にCCRCのような高齢者が多く住むまちを新たに建設する際には下水道式ダストシューターを積極的に導入すべきです。

香川の近未来へのアイデア②：働き手が自分らしく働くことができ、地域を支える中小企業が持続的な事業モデルを描けるまちづくり

2-1) 東京都との最低賃金格差の是正

- 東京都をはじめ、都市部を中心に本県との最低賃金の格差が人材流出の一因となっている可能性があることから、不合理な地域別の最低賃金の格差を是正します。
- その際、事業者の賃金負担が増加しないよう地方交付税交付金を活用した事業者支援、または地域間の賃金格差分を国庫から直接個人へ充当する地域版ベーシックインカムのような制度を検討します。

香川の近未来へのアイデア②：働き手が自分らしく働くことができ、地域を支える中小企業が持続的な事業モデルを描けるまちづくり

2-2) 有償ボランティアマイレージによるエッセンシャル人材の確保

- 医療・介護・福祉における人手不足は今後も深刻化していくと思われ、単純作業や専門知識が不要な業務も含め、その担い手の確保は喫緊の課題となる一方、元看護師や元介護士、その他の医療・介護職を含むエッセンシャルワーカーの人材バンク等の整備は遅れています。
- これらの方々に、パンデミックも含め現場で人材不足が生じるような必要な時に活躍して頂くため、人材教育および人材登録とマッチングの仕組みを整備し、ボランティア人材活用を積極的に取り組みます。
- また、ボランティア人材の謝礼はその場で受け取るのではなく、将来自身が介護サービスを受ける際の自己負担減免や保険料の割引などで受け取る“有償ボランティアマイレージ”を実現します。
- さらに、この有償ボランティアマイレージをエッセンシャルワーカーに限らず活用し、少人数で運営する事業者を対象に、子供の発熱など急な欠勤の際の人材確保など中小事業者の事業運営安定化にも役立てられないか検討します。

香川の近未来へのアイデア②：働き手が自分らしく働くことができ、地域を支える中小企業が持続的な事業モデルを描けるまちづくり

2-3) リモートワークを利用しやすい住宅およびサテライト・オフィスの整備

- 全戸に超高速インターネット通信網を整備すると共に、地域内にサテライト・オフィスを設置し、自宅だけではなくサード・プレイスも含め、個人の好みやニーズに合わせてストレスなくリモートワークに取り組める環境を整備します。
- また、パソコンなど電子機器の多くは直流12ボルトを利用するため、現状は家庭用の交流100ボルトからアダプターにより交流を直流へ変換しています。このエネルギーロスを解消するため、直流送電による12ボルト電源供給のモデル地域をつくり、多様なニーズに合致したインフラの在り方を検討します。

香川の近未来へのアイデア③： 東京 & 大阪とのアクセス、県内や地域内の移動を両立した交通利便性の高いまちづくり

3-1) 新幹線を高松まで接続

- **リニア経由で東京～高松の移動時間を3時間にして県民の利便性向上を図ると共に、今まで以上に多くの方に香川に触れて頂く機会を提供します。**
- **リモートワークを利用する方には、その前提となる必要な時に職場へ出勤できる環境を整え、大阪圏など大都市圏に職場を持ち、日常業務は香川で行う生活スタイルを提案します。**

香川の近未来へのアイデア③： 東京 & 大阪とのアクセス、県内や地域内の移動を両立した交通利便性の高いまちづくり

3-2) 高松空港の機能 & 利便性をさらに高め、他都市との往来をさらに活発にします

- 高松駅と高松空港を結ぶ高速道路とLRT(次世代型路面電車システム)を整備して空港までの移動時間を短縮するほか、高松空港にカテゴリ-3誘導システムを導入することで、天候による欠航および遅延防止をさらに確実にして、利用者のトータルの移動時間を短縮し、高松空港の機能と利便性を高めます。
- 移動のストレスを軽減することで、他都市との人や物の往来をさらに活発にして香川との接点を持つ人々の数(関連人口)を増やします。
- また、高松空港は標高185mと、四国唯一の高台空港であり、津波などによる水没リスクが小さいことを踏まえ、緊急時における四国全体の物資輸送の拠点として貯蔵庫の確保など必要な整備を行います。

香川の近未来へのアイデア③： 東京 & 大阪とのアクセス、県内や地域内の移動を両立した交通利便性の高いまちづくり

3-3) 国道はすべて4車線道路

- **交通渋滞による時間ロス、不要なCO2排出とそれによる燃費支出をなくし、県内の生産性を高めるために国道はすべて4車線道路にして、立体交差や側道などスムーズな道路交通を実現すると同時に、道の駅の整備を推進しドライバーの休養場所の確保と地域の魅力の発信拠点を増強します。**
- **また、個々の信号機にAIを搭載し、能動的に判断や信号機同士の連携をさせることで突発的、局所的に起こる渋滞の芽をいち早く摘むことができるシステムの導入など最新技術の導入も検討します。**

香川の近未来へのアイデア③： 東京 & 大阪とのアクセス、県内や地域内の移動を両立した交通利便性の高いまちづくり

3-4) ラストワンマイルを含む地域配送網の強化

- 食品デリバリーなど多様なリモートサービスを誰でも利用できるように、既存のタクシーやバスなどの運行業者と連携した配送網を整備することで、高齢者など、運転免許証を持たず長距離の移動が困難ないわゆる買い物弱者が、好きな商品の買い物を楽しめる仕組みを実現します。
- また、置配用ロッカーの設置やコンビニなどでの荷物預かりの環境を整備し、ラストワンマイルによる配送コストと配達員の負担を軽減します。

香川の近未来へのアイデア④：地域の観光資源を最大限活用した、魅力的な観光都市を実現するまちづくり

4-1) 高松城天守閣の再建と歴史文化を体験できるまちの開発

- 高松城天守閣再建を目玉として、周辺一帯を歴史情緒あふれる街並みに統一した開発を行い、それぞれのニーズに応じた食や体験型アクティビティを提供できる一大歴史地区を実現します。
- また、歴史教育 & 郷土教育の要素も織り込み、例えば手持ちのスマホにアプリを入れることで歴史や文化の解説を受けることができたり、実際に体験したりできるサービスも検討します。

香川の近未来へのアイデア④：地域の観光資源を最大限活用した、魅力的な観光都市を実現するまちづくり

4-2) 香川県内の城跡史跡めぐりコース設定

- 県内にはおよそ200の城跡があり、うち高松城や丸亀城などおよそ30は国や県・市の指定を受けているなど、観光名所が多数あります。県内観光の初心者でも観光を満喫して頂けるよう、見所や名所を巡るコースを作成します。
- 観光中に手持ちのスマホで利用可能な観光アプリを開発し、旅行者の人数や構成(家族連れ、シニア、一人旅など)に応じた食やアクティビティなどの案内と、ワンクリックで予約が完了する観光の支援ツールを検討します。

香川の近未来へのアイデア④：地域の観光資源を最大限活用した、魅力的な観光都市を実現するまちづくり

4-3) 国立公園など非日常空間でのワーケーションの提案

- 現在、コロナ禍によりリモートワークが広がる中で、環境省では国立公園をワーケーションに活用する取り組みを推進しています。
- 五色台、屋島など国立公園のみならず、県内各地の観光資源に宿泊と執務のスペースを整備してワーケーションにも活用し、新たな来県者のニーズを掴み、県内の観光産業の新たな事業軸を実現します。
- 引田港防波堤壁面にあるセシリア・ベアーベン氏制作の壁画など地域に潤いを与えるアート作品の保存や、その他の芸術活動を支援します。

香川の近未来へのアイデア⑤： 充実した学びの場の確保と、誰でも生涯学習を受けられるまちづくり

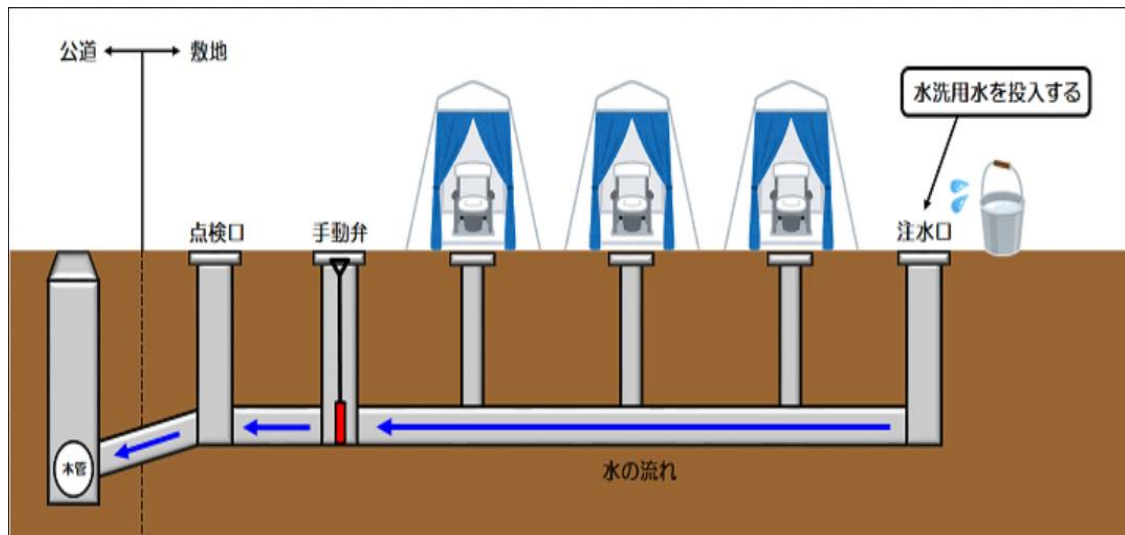
5-1) 学校の生涯学習への活用拡大

- 県内の高校や大学の授業を、対面授業のみならずオンラインで地域住民に開放し、誰でも求める学びを受けられることができる教育システムを実現します。
- 高齢者の再就職、ニートや引きこもり者および障害者の社会復帰支援、現役世代のスキルアップに活用し、香川で住まい働く人の活躍の場を広げる環境を整備します。
- また、学校教育と相互補完的な家庭教育を支援するため、保護者の学習機会(通常の学校課目のみならず心理学や脳科学、対人コミュニケーションなど子育てに必要なスキルも含め)の創出を目指します。
- 日本のものづくり文化や職人文化を担う職人技術者を育成することを目的に、塩江にある職人育成塾等の活動を拡大発展させるなど、様々な分野にある職人技術を後世に伝える労働人材の確保養成を図ります。

香川の近未来へのアイデア⑥：感染症や自然災害による被害を避け、また被害が出ても最小限に抑え込むまちづくり

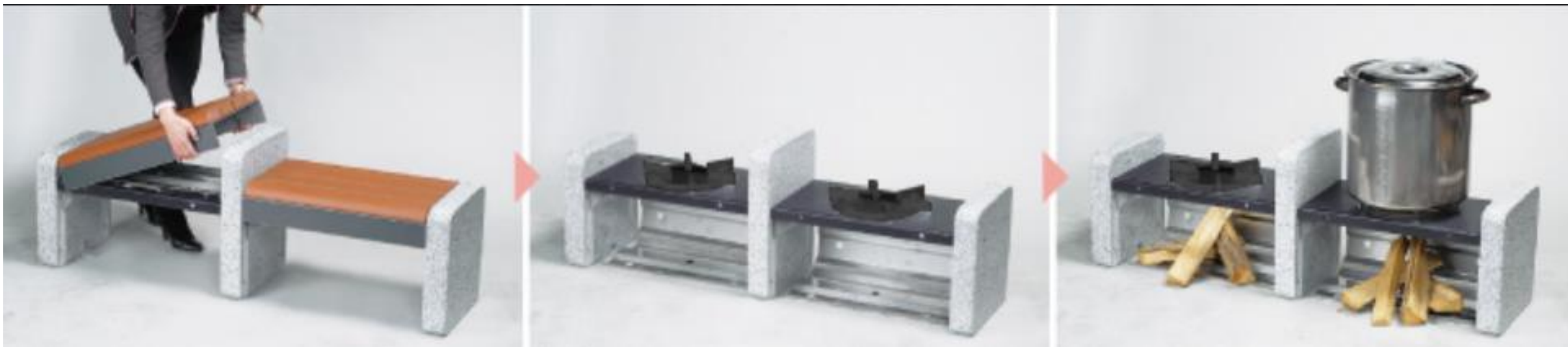
6-1) 公園を防災・避難施設として最大限活用

- 緊急時にはトイレが設置できる“マンホールトイレ”や、炊き出しに使える“かまどベンチ”、避難所用テント設営スペース(遊具活用)、非常電源、非常食など物資の備蓄、緊急時に情報にアクセスできるサイネージ(電子掲示板)の設置など避難時に必要なインフラとして利用できる設計、設備の配置を実現します。
- また、日常的に利用するマラソンコースやサイクリングコースを避難経路として活用できるよう整備するほか、公園の敷地内を緊急時に避難場所までの避難経路として活用できるように敷地を設定するなど、住民が安心して安全に避難する仕組みを検討します。(1-3再掲)



←マンホールトイレ

下水道管路にあるマンホールの上に簡易な便座やパネルを設け、災害時において迅速にトイレ機能を確認するものです



↑かまどベンチ

通常はベンチとして使用し、災害時に座板を外すことで炊き出し用かまどとして利用できます

香川の近未来へのアイデア⑥： 感染症や自然災害による被害を避け、また被害が出ても最小限に抑え込むまちづくり

6-2) 地域内全戸に原則避難施設を設定

- 避難所満員によるたらい回しを防ぐため、予め全戸に原則利用する避難所を設定します。
- 避難所は公民館や役所のみならず、民間施設(ホテル&旅館、貸し会議室、競技場、テーマパーク、カラオケ店など)も利用できるよう、事前契約(減税等インセンティブ)により、必要な物資の備蓄も検討します。
- また、避難所スタッフについては事前にボランティアを登録し、定期的な研修を行い避難所での業務にあたってもらう体制を検討します。

香川の近未来へのアイデア⑥： 感染症や自然災害による被害を避け、また被害が出ても最小限に抑え込むまちづくり

6-3) 公共施設 & 設備の感染症対策設計の徹底

- ドアやエレベーター、トイレ & 手洗い場、駅などの券売機等は非接触型の機種を設置し、外出時にどこにも触れずに済むようにします。
- また、駅や役所などになるベンチや手すりなど利用者が触れる部分は抗ウイルスコーティングを徹底します。